

滋賀県内の医療機関、介護事業所における農作業活用実践事例集

農作業の可能性

やる気 × つなぐ × つむぐ

～はじめに～

滋賀県では、県民誰もがあらゆるライフステージにおいて「持ちうる能力を活かし、それぞれの地域で自分らしくいきいきと暮らせること」を目指しており、それに必要なリハビリテーションを適切に行うことができる環境の整備を目指しています。

近年リハビリテーションのひとつとして注目が高まっている農作業は、障害や病のある人びとの“からだ”や“こころ”を回復し、生活の質を向上させることに効果があるといわれており¹⁾、レクリエーション活動や治療、地域生活へスムーズに移行する手段として活用されています。

そこで今回、医療機関や介護施設の利用者が、農作業の様々な活動を通して、それぞれの生活にどのような彩りをつけられているのか。また、農作業を活用している医療機関や介護施設がその地域にどのような影響を及ぼしているのか。滋賀県内の医療機関や介護施設などに話をお聞きました。実施状況の調査結果をはじめ、農作業に取り組まれている施設の事例やその課題などを取りまとめているので、今後の活動の参考にさせていただければ幸いです。



1) 藤森 文也: 適所に農作業を行うことで、自宅での居居活動を再現し、住民生活まで至った事例
中伊豆リハビリテーションセンター学術雑誌1巻1号 p.21-24(2018).
2) 多田 敏子: 農村地域の在宅高齢者のQOLとADL、身体機能及び社会生活との関連
日本地域看護学会誌3巻1号 p.93-96 (2001)



農作業活用の調査結果



【対象】滋賀県内の回復期・療養病床・精神科病床を有する病院、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅 合計637か所 【方法】アンケート調査法 【期間】令和元年8月5日～8月28日 【回答数(率)】224か所(35.2%)

Q.1 現在利用者・患者に対し“農作業”を活用していますか？

過去に提供していたが、今はしていない

33



Q.2 利用者・患者はどのような農作業をしていますか？ (複数回答)

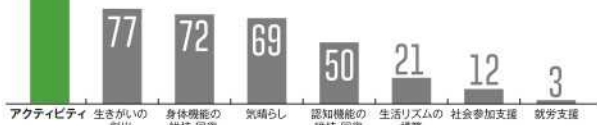


※その他、調理、土起こし、生け花、農機具の買い物、産統、計画立案

ACTIVITY
100



Q.3 農作業を実施する目的は？ (複数回答)



Q.4 利用者・患者に対し、農作業の対価を支払っていますか？



Q.5

農作業を実施する際に主に关わる支援者は？ (複数回答)

(複数回答)



Q.6

農作業に関わるスタッフ数は？



Q.7

農作業に関わる
スタッフ数は
足りていますか？



Q.8

農作業を実施する頻度は？



Q.9 農作業を実施する際の課題は？ (複数回答)



Q.10 農作業を今後も継続しますか？



Q.11 農作業を行っていない理由は？ (複数回答)



Q.12 リハビリテーションの1つとして農作業を活用する効果は？



結果

滋賀県内の医療機関や介護施設で農作業を活用している事業所は約34%で、利用者へのアクティビティや生きがいの創出として活用されていますが、社会参加支援としての活用はあまりされていませんでした。実施している施設は多くは、リハビリテーションの一つとして農作業を活用する効果を感じており、今後も継続したいと考えていました。一方、実施していない施設も多く、「畑の管理や場所の問題」「利用者へのリスク」「スタッフ数不足」などの課題もあることがわかりました。これらの課題を解決し、利用者の自立や社会参加へ向け効果的に農作業を活用したい事業所が実践できるよう、作業療法士などの専門人材の活用やその地域にある資源との連携を進めていく必要があります。

医療

| CASE.01 | 近江温泉病院

医療領域での農作業(園芸)の活用例



その人らしさを支える農作業

聞き手(以下:聞):「医療現場での農作業や園芸の活用についてどのようにお考えですか?」

近江温泉病院(以下:近):「リハビリテーションは、患者さんが暮らしていた地域の中で、その人らしい生活の再建をお手伝いする仕事です。当院がある東近江市の患者さんは、農作業に関わっていた方が多い。つまり、病気や障害があっても少しでもそのような活動に参加できる機会があることが、その人らしさに繋がると思っています。当院では、そのような介入を得意とする作業療法士が中心となり、農作業を

使った介入を行っています。例えば、病気や障害によって、なかなか自分の気持ちを表現し難い方の為に、思いを表現する仕掛けとして目につきやすい所にプランターを置いています。」

聞:「なるほど。その仕掛けからどのようなことが生まれましたか?」

近:「昔に畑作業をしていた脳血管障害の患者さんがいました。作業療法の中で一緒に農作業をやってみよう」という話になりましたが、家族は大反対。家族は畑作業よりも自宅で静養して、安全・安心に暮らして欲しいと望んでいたのです。患者さんもそんな家族の思いを感じており、農作業を楽しみたいけれど、家族には「申し訳ない気持ち」を持っていました。作業療法士はそのような患者さんの気持ちを汲みながら、一緒に園芸活動に取り組みました。すると、患者さんの園芸に取り組む姿を見ていく中で、徐々に家族の考えに変化が生じてきたのです。家族が植物を育てる患者さんの姿を実際に見ることは、家族が本人の想いを知ることにも繋がります。家族が本人の想いを理解してくれることによって、次第に患者さんの

気持ちにもゆとりが生まれ、患者さん自身の意欲も変わってきたのです。その時に育てたのがこの唐辛子でした。」



聞:「医療の中で、農作業や園芸を実施する課題はどのようなものでしょうか?」

近:「患者さんの地域での生活の再建を考えると、その方が慣れ親しんだ作業を活用することは当たり前のことだと思います。しかし、昨今の病院(医療)でのリハビリテーションは、感染症の問題やパターン化された基本動作の再獲得に重点をおいています。医療の中でも、一人一人の地域生活を見据えた介入を早期から実施していくことが大事だと思っています。」



近江温泉病院 総合リハビリセンターでの取り組み

- 具体的な農作業…プランター園芸・畑の散歩
- 特徴(リハの目的)…患者さんのこれまでの生活を知る・園芸を通して意欲の改善や自立を助ける
- 実施時期や頻度…患者さんや植物に合わせて随時実施
- 課題…退院後の農作業の再開の支援までは、入院中だけでは十分に出発しない

近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター

[滋賀県東近江市北坂町966 / TEL:0749-46-1125]

「人にやさしい病院をめざして」を理念に、回復期リハビリテーション病棟、医療・介護療養病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを通じて、様々な地域ニーズに応えるサービスを提供。

介護福祉

| CASE.02 | リハビリセンターあゆみ

介護福祉領域での 農作業(園芸)の活用例



人と人をつなぐ農作業

聞き手(以下:聞)「介護(訪問リハビリ)現場での農作業や園芸の活用例について教えてください」
リハビリセンターあゆみ(以下:あ)「脊柱管狭窄症という病気で歩きにくい高齢者の方がいらっしやいました。その方はこれまで農作業が生きがいであったため、その農作業をできるだけ長く続けることを支援しました。訪問リハビリでは、農作業現場での状況や課題を家族や本人と共有することができました。畑に行くまでの悪路をどのように歩くのか、転びやすい場所はどこか、などのリスク管理を本人や家族と一緒に考えることで、安心して作業に取り組んでもらえるようになりました。」
聞:「通所の方や施設利用者の方については

どうですか?」

あ:「グッド種(goodだね)プロジェクトを最近



始めました。ハンコを押すような繰り返す動作を続けている認知症の利用者がいたのですが、その方の動作を何か意味づけできないか?という思いから始まったプロジェクトです。「グッド種」の判子を作り、袋に押しってもらう。その袋の中に花の種を入れ、その袋を他の通所利用者で持って帰ってもらうようにしています。その種は、各利用者が自分で植えたり、お孫さんと一緒に植えたり、その様子を写真に撮っていたり、持ってきてもらうようにもしています。「グッド種」が人と人を繋ぐツールとなり、多くの利用者がこ

のプロジェクトに賛同してくれています。」

聞:「面白いですね。どのようにしてこんなアイデアが出てきたのですか?」

あ:「作業療法士がアイデアを出しました。作業療法士は、患者さんの生活の中での役割や具体的な課題の改善を得意とするので、その方の生活が潤う役割や活動を常に考えているんです。介護福祉領域は医療よりも、より患者さんの地域生活に近いので、このような支援をすることが大切なことだと実感しています。そして、農作業や園芸は多くの利用者が慣れ親しんだ作業なので興味や関心が高く、今後もっと事業を拡大していきたいと思っています。農作業を高齢者や障害のある方と一緒にワークシェア的にやってみたり、夢は膨らむばかりです!」



リハビリセンターあゆみでの取り組み

- 具体的な農作業…畑作業・グッド種プロジェクト
- 特徴(リハの目的)…人と人を繋げる交流の場づくり
- 実施時期や頻度…患者さんや植物に合わせて随時実施
- 課題…単一施設だけで農作業を行うには限界がある

リハビリセンターあゆみ

[滋賀県東近江市新宮町558 / TEL:0748-42-3355]

利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、必要な医療・看護・介護・リハビリテーションを多職種協働により提供し、早期の在宅復帰や在宅生活の継続を支援、地域に開かれた施設を目指して、地域住民や保健・医療・福祉・教育関係者と積極的に交流している。

地域

| CASE.03 | あいとうふくしモール

地域の中での農作業(園芸)の活用例



地域課題を支える農作業

聞き手(以下:聞):「あいとう福祉モールと農作業の関わりについて教えてください。」

あいとうふくしモール(以下:あ)「あいとうふくしモールは、老若男女、障害の有無を問わず、共に共有し解決していくという姿勢で、様々な地域課題に取り組んでいます。その中の一つの手段として農作業があるという捉え方をしています。」



聞:「あいとうふくしモールでの農作業や園芸の活用例について教えてください。」

あ:「もともと地域の中に、ひきこもり状態のような孤立している方がおり、そのような方たちの



多くは動くことに自信を失っていて、なかなか社会への一歩が踏み出せない状況にありました。そんな中、自分のペースで緩やかに体験的に働く「中間的就労の場」として農場を始めました。それは今も継続して続けている活動で、そこで収穫された野菜はあいとうふくしモール内のファームキッチン野菜花や、田園カフェこむぎに出荷しています。また、農業から発展して2017年から地元のお米を使用したおにぎりの販売も始めています。それもまた農業と同じように地域で孤立しがちな方が参加でき

るような形をとっていて、作ったおにぎりは市役所の売店などで販売しています。」

聞:「あいとうふくしモールの施設運営にあたっての課題を教えてください。」

あ:「あいとうふくしモールでは、地域で孤立しがちなひきこもりやニート状態にある方たちが活動できる場づくりを行っています。中には障害を抱えていたり障害を疑われる方も多くいます。利用者一人一人に必要な関わりが十分に行き渡らないのは、支援者としてやるべきことが多いから、ということももちろんありますが、それ以上にひきこもり状態、地域の中で孤立している方への支援が制度として整っていないので、十分に行き渡らないのだと思っています。制度にのれず孤立している方への支援は、支援する側も孤立しがちになります。そういう点で、リハビリの方に気軽に相談できる連携システムがあれば嬉しいと思っています。」



あいとうふくしモールでの取り組み

● 具体的な農作業…畑作業・おにぎり作り

● 実施時期や頻度…利用者さんと植物に合わせて随時実施

● 特徴(リハの目的)…利用者支援の一つとして

● 課題…利用者さんの作業能力や運動姿勢の問題について十分な検討ができていない

あいとうふくしモール

[滋賀県東近江市小倉町1975-2 / TEL:0749-46-2170]

障害があっても、認知症があっても、どのような症状になっても安心して暮らせる拠点づくりに取り組む。知的障害者の方々が働く「田園カフェ」、介護を必要とする方々と家族を応援する「結の家」、福祉支援型農家レストラン」を運営し、地域の広範囲なニーズに対応している。



〈発行元〉

滋賀県健康医療福祉部
健康寿命推進課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1
TEL:077-528-3657 FAX:077-528-4857

〈作成・編集〉

一般社団法人
滋賀県作業療法士会

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町966
近江温泉病院 総合リハビリテーション内
TEL・FAX:0749-46-8128

〈編集後記〉

取材を通じて、リハビリテーションとしての
の農作業は、元々農作業経験のある方が
馴染みのある作業を介しその人らしい生
活を組み立てなおす、農作業の特性を使っ
て人と人を繋ぎ本人の意欲を引き出す、
きっかけになっていることがわかりました。
「農作業なんて“やれない”」という状態か
ら本人の意欲を引き出し、“やれる”に持っ
ていくために作業療法士の視点は求めら
れていると感じました。